

～連合 マタニティ・ハラスメント(マタハラ)に関する意識調査～ マタハラ被害 25.6%、昨年調査のセクハラ被害超え 約5割が「相談せずに我慢」 一方で、「働きながら妊娠・子育てを希望」の女性 78.4%

すべての働く人たちのために、雇用と暮らしを守る取り組みを進める日本労働組合総連合会(東京都千代田区、会長 古賀伸明、以下連合)の非正規労働センターは、5月27日(月)、28日(火)の2日間「働く女性のための、全国一斉労働相談キャンペーン」の実施にあたり、働く女性を取り巻く3大ハラスメントの1つでもある「マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」の実態に関する意識調査を行いましたので、お知らせ致します。

男女雇用機会均等法が施行されてから27年が経ち、女性が働くこと、さらには結婚・出産・育児と両立することが当たり前の風潮が広がるなかで、「働く女性」を取り巻く問題は尽きることがありません。そこで、本調査では、連合の労働相談に悩みを寄せられる働く女性たちの問題解決だけに留まらず、女性が妊娠・出産を経験しながらも働き続けられることが日常になるためには、環境整備や意識変革と啓蒙が必要であるという思いから、その実態を調査し、社会のみなさまに共有することを目的と致しました。

～調査概要～

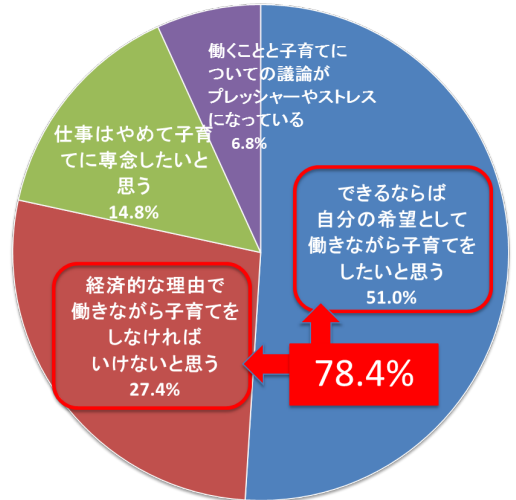
- 実施期間:2013年5月13日～5月15日
- 手法:インターネット調査(マクロミル)
- 母集団:全国在住で現在在職中の20代～40代女性626名
非正規社員:正規社員=273:353、在職中の妊娠経験あり:なし=316:310、お子様は小学生以下

調査結果抜粋

- ◆様々な法律で「働きながらの妊娠・子育てする権利が守られている」こと **知らない 50.3%**
- ◆在職中の妊娠時、「働きながらの妊娠・子育て」に不安を感じた **63.0%**
- ◆妊娠未経験の在職者、将来は
「働きながら妊娠・子育てを希望」78.4%、専業主婦志望は14.8%
- ◆会社に妊娠・出産の当事者支援制度があり **47.4%**、
しかし活用できているのは **16.3%**
- ◆周囲の社員へのケア制度がある職場 **24.0%**、うち制度が機能しているのは **11.5%**

～マタニティ・ハラスメント(マタハラ)に関して～

- ◆自分が「マタハラ被害者」 **25.6%** > 昨年の連合調べ「セクハラ被害者」**17.0%**(※)
マタハラ被害者の **45.7%**「相談せずに我慢した」 ※連合「男女平等月間実態調査2012」
- ◆周囲に「マタハラ被害者」がいた **23.2%**
- ◆マタハラが起きる原因
1位 男性社員の妊娠出産への理解不足・協力不足 51.3%



◆実際に受けたマタハラ、周囲であったマタハラの内容は

- 1位「妊娠中や産休明けなどに、心無い言葉を書われた」
- 2位「妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導などをされた」
(妊娠申告後や産休中・産休明け1年以内)

～調査で寄せられた自由回答～

●妊娠・産休復帰に受けた「マタハラ」

・特に独身男性社員は、妊婦への配慮が全くなく、重いものを持たされたり、目の前でタバコを吸われたり、ショックな出来事が多かったです。(34歳 宮崎 会社員)

・妊娠して少し働いたが結局すぐクビになったので、職場でされて嬉しかったことはない。派遣社員だったので仕方ないかな、と思う。(29歳 埼玉県 自由業)

・今、妊娠が理由で解雇をされそうで気がかりです。(32歳 愛媛 会社員)

・妊娠時の職場では雇い主から、妊娠した妬みで嫌がらせを受けました。(35歳 大阪 会社員)

・妊娠中は嫌味ばかり言われて、嬉しかった事や助かった事などひとつもない。産後も子供が熱を出しても早退しにくいし、休めば次の日どうしたの？としつこく聞いてきて嫌だ。(40歳 茨城 会社員)

●妊娠中や産休中、職場復帰の過程などで、職場で自分がされて「嬉しかったこと」や「助かったこと」

・妊娠を告げたとき、困った表情をせず自分のことのように喜んで頂けたことが嬉しかったです。
(30歳 兵庫 パート・アルバイト)

・復帰後の時間短縮活用で会社にも助成金が下りる利点があることを、会社で公に言ってくれた総務の方がいて、職場で時短を利用しやすい環境が出来た。(35歳 東京 会社員)

・妊娠初期、通常報告すべき上司ではなく、窓口を妊娠・出産経験のある女性上司にしてくれた事が嬉しかったです。男性は説明を受けても、きちんと理解できない、ケアできないという前提のものと配慮でした。こちらも、話しやすく、理解をしてもらえるので助かりました。(32歳 奈良 会社員)

・妊娠を特別と思わず接してくれたことは逆に助かりました。「大丈夫？」と気遣いをしてくれながらも、妊娠前と同じ仕事を任せてくれるなどこちらも仕事がやりやすかったです。産休に入る前の「待っているから」の一言もうれしかったです。(32歳 兵庫 会社員)

・重労働の軽減などの配慮がうれしかったです。(39歳 福岡 会社員)

・妊娠中、復帰後も常に周りの意識が変化しなかったため、復帰後も妊娠前と同じように接してもらえたのが何より嬉しかったです。(41歳 高知 会社員)

・育児休暇中も会社の情報を定期的に発信してくれたり、面談を行ってくれたりして助かった。休み中は会社の情報が一切入らず変化から取り残された気持ちになってしまうため、定期的な接触はうれしかった。(28歳 愛知 会社員)

●在職中に妊娠・出産を希望する方へのアドバイス

・基本は妊娠出産前に精一杯真面目に仕事に取り組む事です。その姿を見ていれば、子供が成長するまでの一時期の事と、理解してもらえらると思います。本人も無理をしないで、普段からコミュニケーションをとって、時間が余る位の時間計画で進めた方が迷惑かからないので、良いと思います。(38歳 神奈川 会社員)

・産休中も資料や業務報告等に目を通すだけで復帰がしやすいと思います。(40歳 神奈川 会社員)

・職場は理解があり仕事はほとんど代わって貰えました。それでも今までと同じ給料を頂くのでお菓子を配ったり、感謝の気持ちをきちんと伝えるようにしました。感謝の気持ちを伝えると良いと思います。(31歳 東京 パート・アルバイト)

・妊娠した人へ。不妊症の治療をしている人や子宮がんで妊娠できない人がいる可能性を考え、職場内では妊娠・出産の経験を自慢らしく話をしないことが鉄則。彼女たちが夜遅くまであなたの代わりに、必死でフォローしてくれたのだから、その事実を真剣に受け止めて、誠心誠意働いてお返しをしようという姿勢を見せることが大事だと思います。(46歳 大阪 パート・アルバイト)

・今後妊娠される予定の方は、頑張りすぎず、体調を崩さないように過ごして頂きたいと思います。子供は宝です。もしも今の会社にいづらくなっても、あなたには大切な子供がいます。今の会社が全てではないという、少しほぐれた気持ちでいることも大切だと思います。(36歳 新潟 会社員)

●その他の意見

・働く女性の妊娠・出産がもっと日常になればいいと思う。(32歳 大阪 会社員)

・子育てにしっかり関わってきた男性が上司や職場に沢山いると、妊娠や子供の急病に理解もあるし、そういう上司の下で働く、子どものいない女性も嫌味を言う人が少ないように感じました。(38歳 三重 会社員)

・国がもっとしっかり政策をやってほしい。女性手帳なんて税金の無駄遣いするのではなく、もっと若者が安心して子供が産める体制を作ってほしい。お年寄りにばかり手厚い補償ではなく、これからの未来を担っていく若者に手厚い補償を下さい。妊娠はしたけどはっきり言って生活できるか不安です。(27歳 福島 会社員)

・職場で私が初めての産休、育休取得者だったため、会社の人が手探りで色々なことを調べたり、教えてたりしてくれた。これが、これからの会社の発展に繋がればいいなと思った。(30歳 埼玉 会社員)

■働く女性のための全国一斉労働相談キャンペーン■

開催日時：5月27(月)、28日(火)10時～19時

ダイヤル：0120-154-052

労働相談ダイヤルは組合の有無や雇用形態によらず、全ての「働く女性」から相談をお受けします。また、この番号は労働相談ダイヤルとして常設されていますが、期間中は「受付時間の拡大」、「女性相談員の増員」など、女性の労働相談の受付態勢を強化しています。

<http://www.jtuc-rengo.or.jp/info/event/20130527st.html>

■本リリース・相談ダイヤル取材問い合わせ

連合 PR 事務局(森下・養毛)

TEL:03-3407-5780 FAX:03-5774-1921

press@epochseed.jp

調査内容を記事でご利用の際は、「連合調べ」と記載頂きますようお願いいたします。

★★★詳細のグラフは、連合非正規労働センターのサイト

<http://www.jtuc-rengo.or.jp/news/chousa/data/20130522.pdf>

よりご覧頂くか、press@epochseed.jp にお問合せ下さい★★★